

# 新オプション

## OCT検査(3次元眼底検査)導入

当院では、OCT(光干渉断層計)を導入しました。

この装置は、網膜の状態を2次元及び3次元(立体的に)の断層構造として、測定・観察できる装置です。

従来の眼底撮影にOCT検査加えることにより、**加齢性黄斑変性・黄斑円孔・黄斑浮腫・糖尿病網膜症・網膜剥離・緑内障**など、疾患の早期発見や精密な検査に貢献します。(裏面をご参照下さい)

### 料金のご案内

・基本コースに「眼底検査」が含まれる方  
**2,500円(税別)**

・基本コースに「眼底検査」が含まない方  
**4,000円(税別)**

※基本コースに眼底検査が含まれているか  
ご不明な方は、お問い合わせください。



この様な症状をお持ちの方は  
是非、OCT検査を受けてみましょう

- ≫最近新聞や本の文字が読みにくくなった
- ≫目が疲れやすい
- ≫遠視や強度の近視がある
- ≫パソコン画面を見つめている時間が多い

自覚症状のないまま、眼の疾患をお持ちの方がいらっしゃいます。

**オプション「OCT検査」を是非ご利用ください**

◆◇追加希望やご質問は、お気軽にお問い合わせ下さい◇◆

IMS(イムス)グループ  
医療法人財団明理会



# 新宿ロイヤル診療所

151-0053 東京都渋谷区代々木2-9 久保ビル2F

# OCT検査の利点

## ■重大な疾患の早期発見が可能です。

眼底検査と併せて検査を行うことで、より正確な診断も可能となります。

≫眼底写真ではわからない、目の奥の立体的な変化を確認できます。

≫短時間で検査は終わり、目に触れないので痛みもありません。

## ■放っておくと失明につながる重大な疾患に・・・

高齢化社会が進に伴い、視力低下や眼病を患う方が世界規模で増加してしています。特に眼の三大疾患といわれる「緑内障」、「糖尿病網膜症」、「加齢性黄斑変性」は失明につながるおそれもあり、早期発見・早期治療が重要です。いずれの病気もOCT検査でより正確に早期発見が可能です。

## 眼の三大疾患

### ■緑内障

日本における失明原因の第1位で、40歳以上の日本人は20人に1人が緑内障とも言われています。自覚症状は、見えない場所に(暗点)が出現する、見える範囲(視野)が狭くなる症状が一般的ですが、自覚症状で気づくのはかなり症状が進行してからということも少なくありません。また、緑内障の怖いところは、一度悪化すると、治療によっても元には戻らないという点です。緑内障治療はあくまで進行を遅らせるもので、見え方を改善することはできません。よって早期発見、早期治療が大事だと言われています。OCT検査を用いることで、視野に異常が来る前の、視神経乳頭の形の変化を検出することができます。

### ■糖尿病網膜症

高血糖状態が続くと、網膜の細い血管は少しずつ損傷を受け、変形したりつまったりします。血管がつまると網膜が酸欠状態に陥り、その結果、新しい血管(新生血管)を生やして酸素不足を補おうとしますが、新生血管はもろく容易に出血を起こします。また、出血するとかさぶたのような膜(増殖組織)ができ、これが原因で網膜剥離を発症する場合があります。最近では糖尿病黄斑症と呼ばれる、黄斑部にむくみや脂肪の沈着などが起こり、視力が低下する症状を来す例も多くなっています。OCT検査では、黄斑部の変化を早期に確認できます。

### ■加齢黄斑変性

網膜の中心部である黄斑に障害が生じ、見ようとするところが見えにくくなる病気です。加齢性黄斑変性は、欧米では成人の失明原因の第1位で、日本でも人口の高齢化と生活の欧米化により近年著しく増加しており、失明原因の第4位となっています。ドルーゼンと呼ばれる前駆物質の沈着の有無も、OCT検査により簡単に検出されます。

黄斑円孔や黄斑上膜といった黄斑の病気も、OCT検査で即座にわかります。